



異年齢の関わりを楽しむ！

園長 吉羽 優子

2階のテラスで育てているナスがグングン育って大きく実りました。アサガオやフウセンカズラのツルも伸びてきて、子どもたちは毎日変化を見ながら生長を楽しみにしています。その様子を観察している年長児は、「(給食で食べた)メロンの種を蒔いたらどんな芽が出るかな？」とワクワクしながら実験気分です。植物の生長に興味をもち、自発的に調べようとする探究心を大切にしていきたいと思えます。

さて、本園の今年の園内研究のテーマは「異年齢交流を通して乳幼児の豊かな心を育てよう！～保育者の援助や環境構成を探る～」です。新園舎で生活して1年半経ち、場の使い方に慣れてきた子どもたちは、園内のあちらこちらで異年齢との関わりが見られるようになりました。5歳児がキングブロックで電車を作ると、3歳児が乗りたそうに見つめています。「乗る?」「うん!!」とキラキラと目を輝かせ、2階の廊下を周遊していました。またあるときは4歳児がピザ屋さんをはじめましたが、学級の友達だけでは飽き足らず、他にもお客さんを呼びたくなりました。5歳児に宣伝するとたくさん来てくれ、お店が繁盛しました。柳町こどもの森は乳児クラスとも交流をしています。振替休業日の日に、5歳児が乳児のクラスにいて一緒に遊んだり、絵本を読んであげたり、優しく手をつないで散歩に出掛けたりしています。日常的に異年齢の関わりができるのが本園のよさです。異年齢同士の触れ合いを通して、「相手に合わせて関わり方を変える」「年下の子どもに優しく接する自分のよさを発見する」「年上の子どもに憧れや頼もしさを感じる」など、様々な感情体験をしているのです。子どもたちの姿を受け止めながら、年齢に応じた援助や環境構成の在り方を保育者同士で明らかにしていきたいと考えています。

1学期が終わろうとしています。朝の挨拶時に園門のところで「行ってらっしゃい」「いってきます」と別れる親子の姿を見ていましたら、ある保護者の方が「去年は心配で玄関までついて行きましたが、今は“ここからは子どもの世界、送り出そう”と思うようになりました」とおっしゃっていました。我が子がこれから園で自分の遊びや生活を繰り広げようとしている姿を、笑顔で送り出してください。乳児クラスは、これまで通り、一緒に保育室へお越しください。4歳児、5歳児の方は、ぜひ門でお子さんを見送ってあげてください。

1学期の園の教育・保育へのご理解、ご協力に感謝申し上げます。そして、夏ならではの豊かな体験を親子で楽しんでください。

